

9番（森忠行議員） 通告に従いまして順次質問をいたします。

まず、財政問題について何点かお伺いいたします。

平成16年度の予算編成方針が提示されましたが、平成10年度以降、市税収入の減少が続き、平成16年度についても大幅な減収が予想されています。一方、支出については、いわゆる経常経費の増加が続き、財政状況は極めて厳しく、平成16年度予算要求については、対前年比マイナス5%の緊縮予算を担当部に要請するという事です。

このような状況に加え、地方財政の改革を訴える政府は、三位一体改革を実施し、平成18年度までに補助金を4兆円削減し、平成16年度は1兆円を削減しようとしています。税源の移譲も検討されていますが、削減分全額移譲されることは考えられず、地方財政にとってはますます厳しい状況になるのではないかと思います。

このような状況の中で、三郷市の財政状況についてどのような認識を持っているのか、またその対応について、まず伺いたいと思います。

市長は平成6年に三郷市政を担当されました。この時期はバブル経済が崩壊し、市政にも少なからず影響が出始めていました。平成7年には人口減少が始まり、また市税収入の伸びがとまり、毎年のように簡素で効率的な行政運営に努め、補助金の抜本的な見直し等述べられ、行政改革の必要性とその実行を訴えられてきました。

その実行はどうだったのでしょうか。立派な行政改革の大綱はできていますが、実行のほどはどうなんでしょうか。改革の認識とは別に、一律何%減という手法で、いわば改革を先送りしてきたのではないのでしょうか。

私は9月議会で足立区の包括予算制度について提案しましたが、市長答弁は早々に検討したいと前向きな答弁がありました。しかし、平成16年度の予算編成方針は、従来発想から抜け出すことができないようです。

包括予算制度は、予算の執行権を担当部に渡し、担当部同士のいわば競争原理、庁内分権をすることにより政策の競い合い、人の活性化等、より効率的な市政を実現しようとする試みです。先送り、一律削減といった余りにも安易な方法では、早晩破綻することは目に見えており、思い切った政策転換をすべきと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。

過去の施政方針でも、補助金の全面的見直し、また情勢の変化に応じた事業の見直し等述べていますが、どの程度見直すことができたのでしょうか。この点についても言葉だけの見直しに終わり、先送りの状況ではないのでしょうか。

補助金についてはゼロからスタートし、エントリー制度とし、三郷市政にとり真に行政が補助すべきか、個人や団体の自主的運営にとどめるべきかを厳正に審査し直すことが必要と思います。また、各種施策についても、行政がすべて行うといういわゆる自前主義は改めるべきだと思います。自前主義はお金がなくなれば何もやらない主義、できない主義になってしまいます。市民ボランティア、NPO、企業も含め、多くの知恵と資金を積極的に受け入れ、協働、協力の政策を考えるべきと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。この問題については、過去にも質問しましたが、あえて再度お伺いしたいと思います。

財政健全化計画の中で、平成17年度には開発公社所有の債務を本会計に繰り入れるということになります。それに伴う新たな財源は約10億円と言われております。また、政府の進める三位一体改革は自治体にとって楽観することはできず、新たな財源の確保や改革に取り組むことにより、効率的な財政運営が必要になります。今後の財政運営の見通しについて、市

長に伺いたいと思います。

次に、シルバー元気塾についてお伺いいたします。

この事業は過去三度一般質問をしてきました。シルバー元気塾の事業のすばらしさは、元気塾の受講者、あるいは全国の多くの自治体、またマスコミ関係者が認めるところと思いますが、肝心の三郷市自身が気づいていないのではないかと、そんなところにこの事業の不幸があるように思います。

私は受講者の方から直接、「歩けるようになりました」「シルバー元気塾はすばらしい」「毎回参加しています」「これがなかったら寝たきりになったかも」という話を先日の特別講座のときにも伺いました。ここでも寝たきりの方を救うことができ、本人だけでなく、どれだけご家族にとっても幸せな生活が実現できたかと思い、伺うことができました。

私は、過去の質問でも、事業として独立した事業にすべきではないか、かつ常設の施設や学校統廃合により設置すべきと何度も訴えました。しかし、答弁は現在の事業スタイルを一步も出ない答弁ばかりでした。時は刻々と刻み、そのおくれがどれだけ救える方を置き去りにしてしまうのかと思うと、とても残念な思いです。

シルバー元気塾の活動の有効性を考えたとき、なぜ高齢者に限った事業としてのとらえ方しかできないのか、この点でも三郷市の考え方が理解できません。健康については、年齢、男女を問わず関心があることで、多くの市民の要望があるこの事業を若年層にも広げ、一大健康増進事業にすべきと思いますが、三郷市はそのような政策は持っていないようです。なぜ高齢者に限った事業としか考えていないのか、その本当の理由を伺いたいと思います。

私は、行政が市民に対し施策として行える事業は安全あるいは安心なまちづくり、環境豊かなまちづくり等々、私たちを取り巻くさまざまな施策があると思います。そんな中で行政みずから市民の健康管理をすることは、個人、家族、社会にとっても、いわば究極の行政ではないかと思います。そう考えると、シルバー元気塾の事業を全市民的事业へ展開することは当然のように考えなければならないと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。

シルバー元気塾の活動の効果を知った市内の事業者の中には、社員の健康管理にシルバー元気塾を活用しようという考えもあります。現に、受講した社員には大変評判がよく、ぜひ多くの方に知ってほしいという声も聞いています。特に、中小企業の多い三郷市の事業環境を考えると、単に健康増進という側面にとどまらず、いわば中小企業の経済活動をサポートする経済支援事業といったことまで考えることができるのではないかと思います。

効果が確認でき、多くの要望、必要性があるシルバー元気塾事業は「教育委員会生涯学習課シルバー元気塾推進係」という枠をとうに超える評価を内外からもらっています。なぜ、かたくなな思考で発展を阻害しているのでしょうか。多くの可能性を秘めた事業として、発展させるべきと思いますが、市長の考えを伺いたいと思います。

次に、県道越谷・流山線バイパスについてお伺いします。

私は、当初この話が浮上したときに、流山橋の混雑解消をするために流山橋以北に建設する橋と道路といった認識でした。しかし、担当部局に伺うと、このバイパスはつくばエクスプレスに平行する広域道路で、つくば市へ続く埼玉県、千葉県、茨城県を横断する基幹道路であるということを伺い、このバイパスの活用、また三郷市のまちづくりにとり、市北部の極めて重要な道路であると認識をしました。

このように考えると、三郷市北部と吉川市のまちづくりや道路活用についての構想ということも当然視野に入れ、今回のバイパス計画を検討しなければならないと思いますが、三郷市としてどのような位置づけと将来のまちづくりについて考えているか、市長の考えを伺い

たいと思います。

このバイパスは常磐道、また武蔵野操車場跡地とも交差し、そのアクセスいかんによっては周辺に及ぼす影響は極めて大きく、かつ将来を左右すると言ってもよいかと思えます。

特に、常磐道とのアクセスは出入り口が1カ所しかない状況を改善でき、三郷市、吉川市南部にとっては、飛躍的に利便性を増すことになるのではないかと思います。

過去2回の地区説明会が開催されましたが、埼玉県主体の事業ということで三郷市は説明を受けるという立場かもしれませんが、三郷市としても当然関係地区の皆さんと、道路環境はもとより道路活用について、また将来地区の皆さんがどうまちづくりを考えているか、今必要なことは何か等々さまざまな意見を聞く、また協議をすることが必要と思えます。三郷市としてどのような対応をしていくのか伺いたいと思えます。

また、このバイパスは将来の吉川市との合併ということを考えると、両市にとり、いかに道路をまちづくりに活用するか、場合によっては常磐道とのアクセス、武蔵野操車場跡地の開発等々、両市一丸となって開発当局に要請するという必要になるのではないかと思います。今までの経過の中でどのような話し合いが行われてきたか伺いたいと思えます。三郷市だけの利害を超え、両市が協議することが必要と思えますが、市長の考えを伺いたいと思えます。

次に、環境問題について伺います。

ことしの冬は例年にも増して暖冬で、日々の暮らしは過ごしやすいということもありますが、経済活動にはさまざまな影響が予想されることです。地球温暖化は我々みずからが自覚を持って取り組まなければならないところまでできていると思えます。行政としても、環境に対する取り組み、また市民に対し環境についての啓蒙活動等、実践しなければならない課題が多々あると思えます。

そこで、具体的な問題として、市庁舎周辺のビル風を利用した風力施設、風力発電施設を建設してはどうかと思えますが、市長の環境に対する考えと具体的施策についてどのように考えているか伺います。

環境政策と施策というのは、頭で考えるというよりは、まず具体的事例により五感に訴えるということが必要なのではないのでしょうか。12月補正で公用車を購入するということですが、従来どおりの考え方で公用車購入の考えではなく、環境に優しい公用車にかえ、市内を走ってもらうと。そのことも重要なことではないのでしょうか。

検討し直す考えがあるかを伺って、1問目を終わります。

市長（美田長彦） 森議員の質問に順次お答えいたします。

まず最初に財政問題でございますけれども、現在の財政状況の認識と対応についてお答えいたします。

今までに例のない非常に逼迫した財政状況であると認識しております。その原因といたしましては、第1に、市の歳入の中心となる市税収入が平成9年度をピークに景気の悪化とともに減収傾向が続いており、その上、政策減税もありまして、毎年、対前年度比で2億円前後の減収が続いていること。第2に、国の地方交付税が減額されていること。第3に、つくばエクスプレス整備に伴う三郷中央地区整備やインターA地区整備等の都市基盤整備が進んできているため、普通建設事業費が増加していること。第4に、人件費、扶助費及び公債費のいわゆる義務的経費が歳入の減少にもかかわらず毎年伸びており、特に扶助費が急速に増加したこと。第5に、国民健康保険特別会計の医療費の支払いや老人医療拠出金が毎年増

加しており、またその国民健康保険税の滞納が毎年2～3億円ずつふえていることから、一般会計からのルール分以外の赤字支援のための繰出金が年々増加していること。第6に、下水道特別会計への繰出金が下水道分の地方債の償還金がふえるのに伴って、毎年約1億円ずつふえていることなどがあると思います。

次に、2の思い切った政策転換をすべきと思うが、及び3、各種政策、事業の全面的見直しをする考えについては、関連がありますので一括してお答えします。

経常経費は毎年削減してきておりますので、かなり厳しい状況ではありますが、コスト削減という意味からも、さらに大幅に削減することも必要かと存じます。また、遊休資産等の売却を積極的に進めます。その上で、義務的経費である人件費についても、去る11月の臨時議会で引き下げについてご議決をいただきましたが、さらに職員の勤労意欲低下にならぬように配慮しつつ、削減について検討する必要があると存じます。

なお、外郭団体についても、当然のこととして運営の合理化を進め、コスト削減に努めるものとしします。

次に、過去の収増時代に肥大化した補助金等を含む行政サービスは、その必要性を十分論議した上で、廃止するものは廃止し、縮小するものは縮小してまいります。特に、市の単独補助や乗せ補助につきましても、積極的に見直すことといたします。そのほか、受益者負担の原則から、市の施設利用については原則として有料とします。

いずれにいたしましても、歳出削減で対応するには限界がございます。また、必要な都市基盤整備事業をとめるわけにはまいりませんし、扶助費につきましても支出しないわけにはいきません。このため、まず市税等の収納対策を強力に進め、公平性を確保した上で、必要ならば、新たな歳入増を図ってまいりたいと考えております。

最後に、4の今後の財政運営の見通しはということですが、国では三位一体の改革ということでいろいろ議論されているようですが、現在のところ、地方への補助金、交付金の減額だけが言われており、それに変わる税源の移譲につきましても見えてきませんので、見通しも立てにくいところであります。市町村の財政運営は国からの補助金や地方交付税が大きなウエートを占めておりますので、政府の方針がどのようになるのか、推移を見守りたいと思っております。

続きまして、シルバー元気塾に関するご質問に一括してお答えします。

シルバー元気塾は北公民館事業のシルバー学級の卒業者に対し実施したアンケート調査の結果から、高齢者の体力向上を目的に開催したものが始まりで、市民の皆さんから大変好評を博し、現在900名以上の方々に参加されており、さらに多くの希望者が機会を待っております。当市の60歳以上の人口は11月1日現在2万5,590人で、この年齢層の方々からの参加希望にこたえることが最優先と考えております。

ご提案の趣旨はわかりませんが、指導者の数にも限りがありますし、また運動自体が若い人に向くかどうかということもありまして、対象者の拡大については今後の課題とさせていただきたいと存じます。決してかたくなに現状を踏襲しているのではありません。この元気塾は単なるストレッチではなく、指導者の指導力による参加者のコミュニティづくりにもなっておりますので、直ちに形態を変更することは難しい状況でございます。

続きまして、3の県道越谷・流山線バイパスについてのご質問ですが、私からは1についてお答えし、2と3につきましては担当部長からお答えいたします。

三郷市として道路の位置づけとまちづくりへの考えはとのご質問ですが、この道路が計画されております市の北部地域は、武蔵野操車場跡地を含む新三郷駅周辺について、広大な敷

地を生かし、広域的な都市機能を担う複合都市機能拠点として、市の総合計画及び都市計画マスタープランに位置づけられており、新たな三郷の魅力をはぐくむ環境と調和したまちづくりを図る地域であると考えております。

三郷市として道路の位置づけは、三郷市将来道路網構想の中で、東西方向を主とする市街との連絡を強化し、さらには草加・流山線の混雑解消を図る広域道路の（仮称）柏・草加線として位置づけられておりました。また、北部地域のまちづくりへの広域幹線となる道路と考えております。また、現在、茨城県及び千葉県内で整備が進められておりますつくばエクスプレス関連の都市軸道路として位置づけがされており、埼玉県内については県道越谷・流山線バイパスとして埼玉県が整備することが決まっております。

いずれにいたしましても、この道路は市北部のまちづくりに与える影響や市全体における社会経済上のメリットなど重要な位置づけですので、市といたしましても事業の促進について強く働きかけてまいりたいと存じます。

続きまして、4番の庁舎周辺の環境についてお答えいたします。

まず、風力発電でございますけれども、風力発電はその風力が年間を通して安定して得られることが必要であり、庁舎周辺のように、日によって大きく変動するところには適していないものと思います。また、羽根の回転による危険性や風を切る音、これは案外と大きいということでございますが、こうしたことなどのために居住環境を悪化させることから、人が生活する区域には風力発電の施設を設置することは難しいものと考えます。

なお、最近、小型化されたものもできています。先日、三春町の四季の里で小型風力発電を見ましたが、発電量は小さく、実用的ではないとのことでした。

そのほか、風力発電施設の設置費用とそこから得られる電力の価値を比較しても、庁舎前に風力発電施設を設置することは困難だというふうに考えております。

続きまして、環境意識の啓発についてでございますが、まず環境に対する認識や対応を明確にするためには、1点目として、さまざまな活動が環境に及ぼす負荷をできる限り減らす「環境への負荷の軽減」、2点目として、現在の環境を守る望ましい環境をつくり出す「環境の保全と創造」、3点目として、すべての人々、事業所などに環境配慮活動を広げる「環境活動の普及・啓発」が考えられます。

現在、庁内における環境負荷に対する取り組みとして、資源古紙の回収、昼休みの消灯、適正な冷暖房運転、ノーカーデーの推進、駐車場におけるアイドリングストップなどを実施しております。

一方、市民及び事業者などの環境配慮活動を普及するためには、温暖化など地球規模の環境問題の周知、市民や子どもたちへの環境学習機会の提供など、環境についての正しい知識や情報の提供を積極的に行っていくことが大変重要であると考えております。

したがって、平成16・17年度で策定を予定しております三郷市環境基本計画の中で、小・中学校等における環境教育の推進、生涯学習の場における環境学習の推進、市民団体や事業者の自主的活動への支援体制などについて検討してまいりたいと考えております。

なお、公用車の購入につきましては、総務部長からお答えいたします。

都市整備部長（山口勝義） 県道越谷・流山線バイパスについてのご質問についてお答え申し上げます。

まず、2、常磐道とのアクセスの可能性の検討は、周辺市民との協議はについてのご質問ですが、議員ご提案の常磐道との直接的なアクセスが可能になれば、この道路の効果はさら

に高まり、地域発展の弾みになると考えられます。

しかしながら、この道路の計画交通量に与える影響やインターチェンジ新設に対しての厳しい技術基準、さらに建設についての多額の地元負担等の大きな問題がありますので、現時点での検討は非常に難しい状況と存じます。

したがって、今後は地元の皆さんの意見などを踏まえ、将来的な土地利用との関連の中で研究課題としてまいりたいと存じます。

次に、3、周辺市と道路周辺の開発についての協議についてでございますが、この地区は武蔵野操車場跡地を中心とした吉川市と合わせた約400ヘクタールの区域について、平成11年度に武蔵野操車場跡地及び周辺地域整備事業化検討調査を関係6団体で実施し、環境共生都市エコヴィーユを開発コンセプトとした調査報告がなされております。

その後、国鉄清算事業本部ほか関係6団体でこの調査報告を踏まえ、事業化に向けて協議調整してまいりましたが、吉川市域については跡地及び周辺地区約93ヘクタールを土地区画整理事業により事業化する方針と聞いております。当市の区域については、半田地区に土地区画整理事業協議会が設立されておりますが、対象区域が約230ヘクタールと極めて広域であることなどから、段階的に整備する方針として、まず最初に跡地のみの約52ヘクタールについて、国鉄清算事業本部の開発行為による事業化を検討しているところでございます。

いずれにいたしましても、県道越谷・流山線バイパスは茨城県つくば市から三郷市につながる幹線道路でございますので、議員ご指摘のように、道路沿道はもとより、周辺地域へのインパクトは大きなものがあると考えられますので、今後も引き続き吉川市における事業との整合性を踏まえながら、半田地区など周辺地区の段階的整備のあり方について調査検討を進めてまいりたいと存じます。

総務部長（島村保） 低公害車の関係でございますけれども、まずは今回の予算をさせていただきました5台につきましては、平成17年4月1日に施行されます埼玉県排出基準を満たすための公用車の5台の買い替え分でございます。

そこで、低公害車にしたかどうかということでございますけれども、今後、利用者の多い車両につきましては検討してまいりたいと思います。

9番（森忠行議員） 答弁ありがとうございました。

財政問題から再質問させていただきたいと思っております。

先ほど私も申し上げましたけれども、政府の地方財政改革の三位一体の中では、今回話題になっているのは補助金の問題が話題になっておりますけれども、交付金の問題も当然切り込んでいくと、こういう状況になっていくと思っております。三郷市でも下水道事業等については補助金をたくさんもらっているという話も聞いていますので、さまざまな局面にこの政府の改革の影響が出てくるのではないかなと思っております。

そうなりますと、政府も思い切ったことをやろうとしているわけですが、そうしますと当然地方自治も、我々の方でもそれに呼応するといひましようか、対応するような形で思い切った改革をやっていかなければ、従来型だと、もうついていけなくなってしまうんじゃないかなと思っております。

平成16年度の予算編成は、先ほどもお話ししましたけれども5%という、我々も資料いただきましたけれども、現場の状況を考えれば、5%ではもう追いつかないんじゃないかと、こういうことも予想されるわけで、単なる一律削減というやり方ではもう限界が来ているん

じゃないかなと思います。ましてや、先ほど申し上げましたように、先のことを考えれば、そんな小手先ではもう間に合わないし、こう認識すべきじゃないかなと思います。

そこで、やはり思い切った政策の転換といえますか、やっていかなければならないわけですが、私、前回の質問で足立区の包括予算お話ししましたけれども、市長さんは前向きな答弁いただきましたけれども、新しいことは全部そろえて用意ドンというか、全部一緒にというわけにはなかなかできないと思います。ですから、できるところからそういう考え方を導入していくと、職員の皆さんにも、なれると言っちゃおかしいですけども、そういうトレーニングの場として、やっていく必要があると思います。

ですから、どこができるかということは難しい問題ですけども、とりあえず財政的に厳しい、なかなかサービスが限りある財源の中で難しいというところが目に見えてあれば、そういうところは思い切った改革をして効果を上げていくと。見える形にしていくということがもう大事なことなので、ぜひ足立区とは言わなくても、庁内の分権、あるいは一部予算の執行を担当部に任すと、そういうような形でやっていくことが必要ではないかなと思います。

いろいろな政策の中で私ちょっと気になったのは、学校給食の給食センターを今回鷹野の方に増設すると。しかも、3,000食の施設をつくるということなんですけれども、行革委員会の資料を見ましても、平成20年度の学校の小・中学校の予想が1万384人ということで、第2・第3給食センターの能力が1万500食、もう既にあるわけですね。平成20年度で1万384人。すると、もう十分賅える数字ですね。

私、前回の質問の中でも、平成18年度の生徒予想数字等、数字の中ではわずか1,135食しか不足がないと。ですから、ぜひこれを設備の改善、第2・第3給食センターの設備の改善をして、この1,000食分を賅うことができるんじゃないか、あるいはこの分については民営化してもいいんじゃないかという、こういう質問をしたわけですけども、そこで答弁は3,000食つくるというお話でしたけれども、それで今回決定したようですけども、私、3,000食の施設をつくって、もしかしたら一度も使わずしてスクラップという、こういう笑いに笑えないような事態が発生するんじゃないかなと、そう思います。担当部局が持っているデータでも、だれが見ても差し引き余るわけですから。

ですから、既存の設備の改修、改善を、何年たっているかわかりませんが、今の調理設備は最新鋭の高効率な設備があると思いますので、そういうことで対応すると。これも政策転換といえましょうか、物の考え方を変えるということだと思うんですね。一度も使わないでスクラップするような設備は極力、極力じゃなくて、もうやめるべきですね。そういう物の考え方をやるべきじゃないかなと思います。

それと、遊休地の話もありましたけれども、もう何度も私、遊休地は処分した方がいいんじゃないかなと。現に使っていない遊休地あるわけですからね。それで、何か年末になると防犯上心配だということで、その遊休地のところにさくをやるような作業も何かやるように聞いていますけれども、そんなことをやるのであれば、もう早々に遊休地は売却すると。

しかも、このデフレの中で、持っていれば持っているほど損が発生しているわけですね。貴重な市民の財産が持ち続けたいながらマイナス財産になっているということは大変残念なことなので、民間で活用できることがあれば、そこからは収入として財源にもなるわけなので、躊躇することなく、必要でないところは売却をすると、こういう決断をすべきだと思います。

それと、もう1点、この三郷は人口がふえて、ここ30年ぐらいふえたんで、それまでは純農村地帯ということで、田んぼの基盤整備事業が中心の風景が残っていたわけですね。特に、

戦時中の基盤整備事業というのは、かなりいいかげんというわけじゃないですが、その当時の技術レベルですとそういう状況なんでしょうけれども、農家が多いんですけども、農家の個人の敷地の中にいわば公有地が入り込んでいると。こういう事例はたくさんあるわけですね。これはいわば本人も知らない、親の代からもう垣根で囲ってあって、知らない。何かのときに公道が入っています、換地がありますよと言われて気がつくと、こういうケースもあるわけで、まさにこの市有財産も要らない - - 要らないという言い方おかしいですけども、個人の方が何十年も使っているということであれば、お話をしてお話をして払い下げをすると、こういうことも必要なことだと思います。

それは当事者にとっても行政にとっても何の不利益もなく、お互いがプラスだと思いますが、好ましい状況になるんじゃないかと思しますので、これも遊休地の売却と合わせて、市有地になりますけれども、そういうことも検討すべきじゃないかと思えます。担当に聞きますと、そういうことはやっていますということですけども、よりそういう前向きの行動、あるいは働きかけをしたらいかがかなと思えます。ぜひ検討をお願いしたいと思います。

私、今回、質問の答弁者を市長さんだけにお願いしたんですけども、今リーダーの方のリーダーシップがやはり求められているんじゃないかなと思えます。すべてがもう決断ですね。もう右か左かというような決断をしなければ、もう立ち行かなくなっているという状況がありますので、あえて市長さんに答弁を求めたわけですけども、今るる申し上げましたけれども、1問目でも申し上げましたけれども、どんなご感想でも結構です。あるいは決意でもいいですから、お答えをお願いします、していただきたいと思えます。

それと、2番目のシルバー元気塾なんですけれども、私、もうシルバー元気塾は全国に有名な、三郷市が胸張って誇れる事業なんです。しかも、平成10年度にスタートして、担当部署にどういう効果が上がっているかデータありませんかと言いましたら、まだ集計中だとか、まだまとまっていなとか。一体何やっていたんでしょうかね、このもう5~6年間。

しかも、先ほど申し上げましたように、とても効果があって、多くの市民の参加者を断るような状況なのにもかかわらず、何もやっていなかったはずはないと思えますけれども、資料が机の隅っこに行っちゃって見つからないのかもしれないかもしれませんが、もう結果は出ているんですね。それだけの方が参加したい、健康になったということで、今さらデータでもないでしょうけれども、もう結果は出ているわけで、これをなぜ一部署でやらせているのかなと、私、不思議でしょうがないですね。

以前ですけども、議長会の関係で、犬羊村の村長さんが、その施設でこんなようなことやっているわけですけども、そのときにお話に来ました。いわば、行政のトップセールスマンですね。犬羊村はこんなすばらしいことをやっているんですということをセールス、PRしているわけですね - - 広報マン、セールスマンじゃなくて広報マンですね。トップ広報マンですね。そういうことができるぐらいのすばらしい事業だと思います。

市長さんみずから、三郷市じゃこんなことをやって多くの市民が参加でき、健康になっていますよと。こんなお金かからなくて、皆さんに喜ばれて、全国の方が興味、マスコミの方も興味、こんなすばらしい事業ないと思えますので、これをもうちょっと違った展開ができるようにやるべきじゃないかと思えます。

先ほどお話ししましたけれども、事業者の方も、私の知り合いでも2社の方が実際にやりました。それで、大変よかったと。私もそれに一度は参加しました。そうしましたら、ちょっとした運動で、不思議なんです、手が床につくようになった。皆さん歓声が上がりますね。その後、私はこんなことをやっていると、ゴルフへ行っても疲れなくなりましたよなんて

いう話もありました。

ですから、老人に限らず、ストレッチをしているということは、自分みずからの健康管理のためにもすばらしいことなので、何かかたくなに60歳以上にこだわっているようだけれども、もうちょっと幅を広げてやる必要があるんじゃないかと思います。

特に、事業の関係、事業者の関係の方にとっても、とても福利厚生といえますか、その辺もあって大事なことだと思いますので、直接できなければ、ビデオやDVDをつくって配布すると。こういうこともやる必要があるんじゃないかと思います。

多分、ビデオやDVDをつくると全国から申し込み殺到で、もしかしたら大きな税収にもなりかねないと、なっているんですけども、そういうこともビジネスとか、お金もうけじゃないですけども、それだけ需要があるんじゃないかと思いますので、検討してほしいと思います。これは市長さんにこういう決断をお願いしたいと思いますので、お答えをお願いしたいと思います。

それと、バイパスの問題なんですけれども、私はなかなか高速道路とのアクセス難しい云々という話ありましたが、これは吉川市にとっても大変にすばらしい道路になるわけですね、アクセスが可能になります。ですから、三郷市だけという視点ではなくて、広域的な側面でこの道路を活用したい。あるいは、こういった側面で面整備でもいいですから何かやって、それを活用するという方向でやはり相談をするといえますか、話をするということがとても大事なことだと思います。

過去に、これは私聞いた話ですけども、常磐高速道路の料金所、あそこが後ろにあるわけですけども、あそここのところに入出口をつくりましょうかというお話があったという話を聞いています。そのときに、地域の方の広範囲な議論ができなかったのかもしれませんが、そんなところに要らないよという話で、結果的には番匠免まで来ちゃったという話を聞いたことがありますけれども、そういう二の舞を踏まないように、せっかくクロスするわけですから、これをうまく活用する手は、そういうことを考える必要はあると思います。特に、半田地区が今区画整理やろうという動きがありますので、駅もありますけれども、駅と広域道路、これは大変土地活用、あるいは地域の発展にとっては重要なことだと思いますので、ぜひ吉川市さんと一緒にお話をするのをやってほしいかかなと思います。これも市長さん、お答えをお願いしたいと思います。

もう一つ三郷市には高速道路の入り口があるわけですけども、おりるとみんな渋滞ですね。こんな恥ずかしい状況は27メートル、4車線道路にアクセスすれば大幅に解消できると、こう思いますので、ぜひこれを検討してほしい、吉川市さんとも相談をするようにお願いしたいと思います。ぜひお答えをお願いしたいと思います。

それと、4番目の環境問題なんですけれども、余り風が吹かないんじゃないかというような答弁でしたけれども、私は地方で今、全国の地方では風力発電というのがいけば環境対策を講じて町おこし、あるいは企業が何十基とまとめてつくって、風力発電事業を起こして、やろうと、例もたくさんあるわけですね。

ですから、そういう側面で私は言ったつもりはないんです。環境として、環境意識の高揚のシンボルとして、風が吹いたら風車が回っていると。ああ、何かうれしいなみたいなですね、そういう環境意識を啓発する、啓蒙する意味で周辺に設置したらいかがですかというお話でしたので、そこでどうのこうの、事業をする、あるいは回らないんじゃないかということを超えて考えていただきたいなと思います。

特に、今、車の問題もお話ししましたけれども、排ガス規制の問題というお話でしたけれ

ども、今環境に対する市民の意識は大変高く、トヨタの環境対策車、ハイブリット車はもう大変な売れ行きを示していると。もしかしたら、我々行政側よりも一般市民の方の方が環境意識がもう先行していると、こういうことも言いかねないような状況だと思しますので、後追いにならないように、市みずからそういう問題について取り組んではいかがかと思えますけれども、何か買わないというお話ですので、買わないでしょうから、これは答弁は結構です。

以上です。ありがとうございました。

市長（美田長彦） 森議員の再度のご質問にお答えいたします。

質問の中では、私の方の市長部局の問題とそれから教育委員会の問題がごちゃ混ぜに入っちゃっておりまして、それを整理しなきゃならないんですけども、今、教育委員会と方とも相談いたしまして、教育委員会の方はそちらにお願いすることにいたします。

それで、補助金とか交付金が今後減額されるということは私どもも考えております。ただ、それに伴って税源の移譲というのがついてこなければならぬわけです。それが三位一体の中の問題でございますので、私はこういうものが必ずついてくる、そうでなければ各市町村、三郷市はまだいいんですけども、もっと小さい町村等においてはすべて成り行かなくなってしまう、そういうことが考えられますので、必ずこれがどういう形かについてくるだろうというふうに私は考えております。

ただ、その場合、どういう形で来るかが今のところ見えない。そのために、来年度予算の編成もなかなか難しいというような状況でございます。

それで、第3給食センターの問題でお話ございましたが、給食数の推計、将来どうなるか、それから1,000食だけで間に合うのかどうか、これにつきましては学校教育部長の方から答弁いたします。

それから、農家の家に公有地等が街道の形で残っている、これは確かにあるんです。これについては積極的に売却といいますが、そのお話を持っていまして、買ってもらうようにしたいというふうに思っております。

それから、次にシルバー元気塾ですけども、これも教育委員会の今管轄になっておりますが、私ども考えていろいろお話を聞いている中では、やはり指導員の力によるところが大きいと。要するに、ただストレッチを教えるだけじゃない、話をしながら教える。それによって、中でのコミュニケーションも育っていくということですから、先ほどもお答えしたときは、健康づくりと同時に生きがいづくりにも役立つということでお答えしたわけです。

そういうことで、単にやればよいということじゃないと思います。それに合う指導者を養成しなければならない。今、そういうことで指導者の養成にも力は入っております。

それから、もう一つ、こういうストレッチ体操のようなものは各地域でほかでもやっているようです。先日、テレビ見ておりましたら、つくば市でもやっている。あれは筑波大学の体育の方が指導しているらしいんですけども、そういう中ではいろいろな形があって、やはり若者は若者に合ったストレッチ体操、高齢者は高齢者に合ったストレッチ体操でなければならないというふうに思っております。今、シルバー元気塾でやっておりますのは、その高齢者向けのものがございますので、もし若い人にそれを普及しようとするならば、また違ったものを考えてやっていこうというふうに考えております。

それから、都市軸道路とその周辺の開発についてでございますけれども、これは吉川市との協議ですが、吉川市とのコンタクトは6者会議などでとってあるわけですけども、ただ、

道路の周辺をどういうふうの開発していくか、あるいは高速道路へどうやってつけるかという
ことについて、吉川市との協議はまだされていません。これについては今後検討してま
いりたいというふうに考えます。